

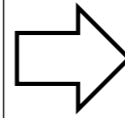
A 商店街内の新しい拠点の開設

鹿野・横山

平成27年12月11日

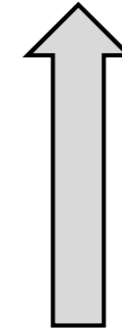
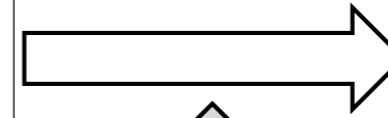
若者にとっての商店街の現状（評価・問題点・課題）

- 若者向けの品揃えや商店が少ない
- 飲食や買物だけではない利用の仕方ができる場所がないので、商店街を利用するきっかけが無い。
- 余暇を過ごしたり、趣味を生かすような場所が無い。
- 商店街だけでなく地域の情報が伝わってこない。
- アルバイトできる場所が少ない。
- 若者同士、世代が違う人同士と交流していない。
- 元々商店街を利用する習慣が身につけていない。
- 郊外型店、大型店、量販店が慣れている。



より良い商店街のために何が必要か？（コンセプト・視点）

- 気軽に利用でき、長時間利用できるような「拠点」を創りあげることによって、様々な世代間交流を画策し気が付かなかった交流によるメリットを知ることによって、商店街エリアの利用者を増加させる。
- 商店街エリア利用者への有益な情報提供を武器として地域商業・サービス業活性化のヒントを見つける。
- 様々な世代間の交流から、商店街が求められる機能を再発見し、地域住民・若者・事業者間の好循環による気付きを促進する。



魅力ある商店街への提案とその効果想定

（こうやったら、こう変わる！）

- 様々な世代間の情報共有により、地域住民と商店街との相互理解が進み、活性化の元となる。
- 不足している機能・業種・サービスを再認識し、新たなテナントミックスを画策できる。
- 商店街自身の業種業態の見直しが促進できる。

魅力ある商店街のための具体的提案

具体的提案内容（事業内容、スケジュール）

<コミュニティカフェ>

- せめて夜は11時迄利用できる場所が欲しい。（学生が勉強できるスペース）
- 午前（高齢者）、午後（教室）、夕方（子供）、夜間（学生）と利用主体を変えることも可能。
- 拠点があるだけでなく「魅力」を持った機能が必要だと思う。

例えば、主婦シェフランチや女子大生カフェなど、機能そのものに魅力が必要。

商店街に無い

「駄菓子屋」

「限定！主婦シェフランチ」→ 曜日を決めて普通の主婦がランチを提供
定額500円程度で20食限定販売など

「ハンドメイドBOXショップ」→ 50cm四方の枠で募集して、ハンドメイドな商品を製作している方々から商品を預かって委託販売を行う。

「1坪チャレンジショップ」→ 1坪月額1万円程度の家賃で、新たに商売を始めたいと希望している意欲ある若者の出店を募る。

「歌声喫茶」「認知症防止体操教室」等、日中利用可能な方々向け教室

「外国人交流カフェ」→ 月1回程度で外国人を招いた交流カフェ

事業主体

運営体制（人材確保）

運営体制（運営費・当初費用、負担割合）

実現のための課題